

Nov-1943

(限 内) 部)

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十號

昭和十八年十一月二日(月)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房經第一一九七號

當分ノ間支那ニ在ル海軍ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍屬(囑託者及工員ヲ含ム以下之ニ同ジ)勤務地ニ家族ヲ移轉シ又ハ勤務地ヨリ家族ヲ移轉スル爲家族移轉料ノ支給ヲ受ケントスルトキハ海軍外國旅費規則第二十六條ノ規定ニ拘ラズ所屬長官ノ認許ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ勤務地ニ家族ヲ招致シタル者及支那ニ在ル海軍ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍屬ニシテ勤務地ニ於テ妻(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム)又ハ子(十八歳未滿ノ者)ト同居スルモノハ在外海軍部隊艦船臨時給與令施行細則第五條ノ二及昭和十七年官房第五〇六八號ニ依リ特別手當ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 年齢二十五歳未滿ノ無待遇囑託者、雇員、傭人及

工員

- 二 一年未滿ノ豫定ヲ以テ支那ニ勤務スル者
 - 三 二年未滿ノ豫定ヲ以テ海軍ニ勤務スル者
 - 四 艦船乗員又ハ艦船乗組ノ配置ニ在ル者
 - 五 海軍部外ニ在官又ハ在職スル者
 - 六 臨時勤務者
 - 七 支那以外ニ在ル海軍各應ニ本務ヲ有スル者ニシテ支那ニ在ル海軍ノ部隊其ノ他ノ各部ニ兼務スルモノ但シ特別ノ事情アル者ヲ除ク
 - 八 前各號ノ外所屬長官ニ於テ支給ヲ要セザルモノト認ムル者
- 昭和十八年十月三十日

海軍大臣

○ 通 牒

官房備機密第一四五號ノ二〇
昭和十八年十一月二日

海軍公報(部内限) 第四千五百三十號

昭和十八年十一月一日

一一七一

0318

海軍省 副官

各廳長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ一) 中ニ「加熊別 ウ壹貳九」ヲ加フ

同(其ノ二) 中ニ「セブテ四七」ヲ加フ

同(其ノ三) 中ニ「バダンイ參貳」ヲ加フ

同(其ノ四) 中ニ「チラチャツブセ四參」「ツガン七四四」ヲ加フ

附録部隊區別符表(其ノ一) 中ニ「第十八聯合航空隊司令部 ヲ貳九貳」「第三十六防空隊 ヲ貳九九」「第六十九防空隊 ヲ參〇〇」ヲ加フ

同(其ノ二) 中ニ「在勤海軍武官府 テ貳〇」ヲ加フ

同(其ノ三) 中ニ「第二十一魚雷艇隊 イ九參」「第三十四防空隊 イ九四」「第二航空戰隊司令部 イ九五」「第五十五防空隊 イ九六」「第七十防空隊 イ九七」ヲ加フ

同(其ノ四) 中ニ「第三十三防空隊 セ九參」「第三十五防空隊 セ九四」「第五十六防空隊 セ九五」「第五十七防空隊 セ九六」「第一〇一防空隊 セ九七」ヲ加フ
別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中第四十一海軍軍用郵便所ノ項ニ「第一派出所 サバン」ヲ加フ

軍需機密第五七七號ノ四
昭和十八年十月二十七日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
各特設海軍軍需部長 殿

艦營需品供給停止、供給制限、代用品利用及規格低下ニ關スル件中改正ノ件申進

軍需機密第五七七號申進首題ノ件中左記ノ通改正セラレ候

記

供給停止品ノ部

區分	主管別	區別	品名	記	事
追加	機關長	貸與品	油運搬	鑽	

代用品使用又ハ規格低下ノ部

0319

改正	追加	削除	改正	區分
同	同	同	機關長	主管別
同	同	同	備品	區別
濃分計鑑	寒暖計類	蛇管接手乙	蛇管接手乙	品名
陶器製若ハ竹製ニテモ 差支ナシ	ノ誤差中ノ許容シテ支ナ シ	ノ代用 銅其ノ他ハ可鍛錫鐵ヲ 用	ゴム蛇管甲、乙特小、 丙及戊數ニ已用ハ可鍛 鐵防務塗料ヲ塗付ス	記 事

○ 辭 令	
(各通)	通信事務官 古山 建次
	同 岩崎 順吉
	通信書記 野田 達夫
海軍運輸本部附ヲ命ス(ハコ海軍省)	都築 元次
第二遣支艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(ハコ海軍省)	酒井 忠策
特設海軍燃料廠補給部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限	

奏任官待遇トス(ハコ同)	貳千四百貳拾圓	花房 飛虎二
(各通)	貳千七百七拾圓	濱崎 次郎
	貳千七百七拾圓	芦名 武雄
南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス		
但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官		
待遇トス(ハコ同)		
鐵道官	齋藤 秀雄	
同	石原 豊	
同	松島 甫	
鐵道官補	小林 五十四	
同	三浦 廣義	
同	吉岡 高輔	
同	川口 清長	
同	塚本 照雄	
同	石川 富夫	
同	鹽田 義夫	
同	窪田 庄吉	
同	倉谷 悦三	
同	門脇 岩夫	
同	湯山 二郎	

海軍公報(部内限) 第四千五百三十號 昭和十八年十一月二日

一一七三

0320

鐵道官補 古澤 孝郎

同 加藤 欽吾

鐵道手 三輪 龍門

鐵道省雇 能登屋 源藏

同 住友 重春

同 杉田 宏

同 齋藤 正二郎

同 熊谷 九郎

第二南遣艦隊司令部附ヲ命ス(附同)

文部省教學官 前田 隆一

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

海務院事務官 室井 政雄

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上附同)

同)

(各通)

小林 茂雄
谷口 龍見

昭南海軍運輸部西貢支部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス

神谷 剛太郎

スラバヤ海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(以上附同)

(各通)

千秋 克巳
渡邊 巖

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス(附同)

第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス

樋口 清

江里口 秀雄

吳海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ヲ解キラバウル海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)(以上附同)

東京海軍通信隊附通信書記 石垣 清一郎

兼海軍技術研究所附ヲ命ス(附同)

事務員 渡邊 盛治郎

第十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

事務員 福山 岩雄

集配員 吉實 保治

(各通)

第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス

事務員 福山 岩雄
集配員 吉實 保治

0321

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上計五品同)

通信事務官 佐野 桐吉

第三十九海軍軍用郵便所長ヲ命ス

通信書記 池田 吉久

同 岡崎 勇

同 松岡 長六

貯金局書記 田村 一民

通信書記 沖谷 一郎

遞信局書記 石橋 信義

通信書記 福島 信泰

同 奥田 勇

同 中西 雄三

通信書記補 水野 脩三

同 中山 悦夫

同 佐戸 幹雄

遞信局書記補 弘兼 正知

第三十九海軍軍用郵便所員ヲ命ス(計八品同)

海軍主計中佐 増澤 英一

海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス(計四品同)

住友 恒一

セレベス民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官

待遇トス

高橋 善衛

第二海軍航空廠ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

村上 順次

第一海軍火藥廠工員養成所教務ヲ囑託ス

但シ報酬年額九百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

望月 明

海軍運輸本部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

大東亞技師 青柳 晴一

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託シ解キ海軍備府ニ於ケル業務ヲ囑託ス

山口 則明

海南海軍施設部ニ於ケル醫療業務ヲ囑託シ解キ海軍施設本部ニ於ケル醫療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍公報(部内限) 第四千五百三十號

昭和十八年十一月一日

一一七五

0322

山本 博

第八海軍建設部齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍艦政本部業務囑託

岡田 榮一

自今報酬年額貳千四百圓ヲ給ス

高山 貞三郎

海軍省人事局事務兼支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解キ支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

遞信技師 岸田 幸太郎

遞信局技手 井口 菊次郎

同 荒木 万喜雄

遞信技手 飯澤 房一

聯合艦隊司令部附ヲ免シ東京海軍通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス(以上二同)

海軍主計少佐 吉岡 秀之

佛印ニ於ケル準備購入材料物品費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計中佐 増澤 英一

臨時資金前渡官吏ヲ免ス(付明支出官 海軍省經理局

長)

海軍主計中尉 田淵 義雄

第二海軍補充部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(二同)

○ 雜 款

○海軍軍人軍屬家族ノ診療ニ關スル件

海仁會病院ハ從來現役海軍軍人家族(支那事變以降ノ戰歿海軍軍人遺家族ヲ含ム)ノ外軍屬ノ需診ニモ應ジタル處今般軍屬ハ艦營傭人家族ニ限ルコトシタルニ付各所轄長ニ於テ發行セラルル需診資格證明書ハ右該當者ニ限リ發付ノコトニ取扱ハレ度 (財團法人海仁會)

○司令潜水艦變更

第七潜水隊司令ハ十月二十八日司令潜水艦ヲ伊號第五潜水艦ニ變更セリ

○司令艇復歸

第五十二掃海隊司令ハ十月二十四日司令艇ヲ第二十四號掃海艇ニ復歸セリ

○書類發送ニ關スル件

當廠宛郵便物ニシテ支廠ニ關係アル書類ハ其ノ都度本

0323

廠ヨリ寫送付ノ處事務上不便不尠自今廠、廠長宛ニシテ支廠ニ關係アルモノハ寫ヲ直接左記ヘ送付相成度

記

岡山縣岡山市上伊福

第二海軍衣糧廠岡山支廠

(第二海軍衣糧廠)

○事務開始

滿珠艦裝員事務所ハ十月二十二日岡山縣玉野市玉三井造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第五十號驅潛艇艦裝員事務所ハ十月二十三日長崎縣西彼杵郡香燒村字長濱長崎海軍監督官事務所香燒島出張所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

呂號第百十五潜水艦艦裝員事務所ハ十月二十七日川崎神戸造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

三宅艦裝員事務所ハ十一月一日神奈川縣横濱市鶴見區辨天町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第二百一設營隊事務所ハ十月二十八日之ヲ撤去セリ

○正誤

十月二十五日附公報(部内限)辭令欄一二四五頁上段

十三行目「(同)」ハ「(同)」ノ、昭和十八年潛艦部機密第十四號(五月二十二日海軍公報(部内限)參照)中「第三表及第五表」トアルハ「第三表及第四表」ノ孰モ誤

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年十一月一日(月)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一二三九號

昭和十八年度新造計畫雜役船ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十八年十月二十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(前送ノモノト引換ヘ舊紙ハ燒却相成度)

部内限

公稱番號	船種	所屬	定數別	製造訓令番號	竣工豫定期日	備考
自第(三〇)號 至第(三〇)號	特型運貨船 (十七隻)	佐世保防備隊	臨時附屬	昭和十八年官房艦機 密第四五六四號(吳)	昭和十八年 十月末日	
自第(二〇)號 至第(二〇)號	同	同	同	同	同	同
自第(一五)號 至第(一五)號	同	同	同	同	昭和十八年 十月末日	
自第(一〇)號 至第(一〇)號	同	同	同	同	昭和十八年 十一月末日	
自第(〇五)號 至第(〇五)號	同	同	同	同	昭和十八年 十一月末日	
自第(〇〇)號 至第(〇〇)號	同	同	同	同	昭和十八年 十一月末日	
				株式會社名村造船所	同	

海軍公報 (部内限) 號外

0325

海軍公報 (部内限) 號外

自第 三〇七 號	自第 三〇六 號	自第 三〇五 號	自第 三〇四 號
同	同	同	同
(四 裝)	(三 裝)	(五 裝)	(五 裝)
同	同	同	横須賀防備隊
同	同	同	同
株式會社宮地鐵工所			
三 月 末 日	二 月 末 日	一 月 末 日	昭和十九年

0327

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十八年十一月一日(月)

○郵便物發送先通知 (宛先ハ下段ノ通記載ノコト)

○艦船ノ部

一 風雲、秋雲、夕雲、興津丸

一 隼

一 第二航空戰隊司令部

○陸上ノ部

一 第五十四防空隊

一 第二百一設營隊

一 第八防空隊

一 第六十二防空隊

一 南西方面艦隊海軍徵備航空輸送部

同 スラバヤ支部

同 昭南支部

同 スラバヤ工場

一 第五十五防空隊

(舊第二輸送機隊)

横須賀局氣付 風雲、秋雲、夕雲、興津丸

吳局氣付 隼

佐世保局氣付 「イ壹九 イ九五」

横須賀局氣付 「七四〇 七八八」

同 「七四四 ヲ壹五八」

吳局氣付 「七參貳 イ六九」

同 「七參貳 七壹六」

同 「七貳壹 七六八」

同 「七貳壹 七六八 七貳六」

佐世保局氣付 「イ壹九 七六八 七貳六」

吳局氣付 「七貳壹 七六八 七九八」

館山砲術學校内 「イ九六」

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

八一

0328

第五十六防空隊	館山砲術學校内	「七九五」
第五十七防空隊	同	「イ九六」
第七十防空隊	同	「イ九七」
第一〇一防空隊	同	「セ九七」

司令、主計長宛
 隊機關長、軍醫長宛
 追テ司令宛ニシテ各艇ニモ必要ノモノハ直接各艇
 宛送付相成度
 (第二十五掃海隊)

0329

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十一號

昭和十八年十一月二日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房軍機密第一三二四號

昭和十八年十一月一日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

練習艦艇配當ノ件中改正ノ件訓令

昭和十七年官房機密第二九六五號別表中左ノ通改正ス
海軍潜水學校ノ項中「第十九潜水隊」ノ下ニ「呂號
第五百潜水艦」ヲ加フ

(内令提要卷三、六〇頁参照)

官房經第一一九九號

昭和十五年四月二十二日ヨリ同年十月二十一日迄ノ間
ニ見習工員ヲ成業セル工員ニ對シ戰時海軍工員規則第
九十四條ノ規定ニ依リ本年十月誓約賞與ヲ支給スベシ
誓約賞與支給標準ハ誓約期間滿了ニ依リ昇級シタルト
キノ給料七十四日分トシ誓約期間滿了ノトキ海陸軍ニ

徵集又ハ召集中ノ者ニ對シテハ再備又ハ復歸ノ際其ノ
給料ニ依リ之ヲ支給ス但シ廳長ハ必要ニ應ジ適宜減額
支給スルコトヲ得

本令ハ職員ニ之ヲ準用ス

昭和十八年十一月一日

海軍大臣

○辭 令

海軍豫備大尉 橋本 貞秋

愛國丸ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經
費臨時分任出納官吏ヲ命ス(二十五日) 支出官 海軍省經
理局長)

海軍主計兵曹長 岡田 三郎

P及Q基地ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦
隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(二十日同)

海軍公報(部内限) 第四千五百三十一號

昭和十八年十一月二日

一一七九

0330

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十二號

昭和十八年十一月四日(木)

海軍大臣官房

○令達

官房人機密第六九二號
當分ノ間海軍退職賞與内規第六條ニ規定スル辭令書ハ
之ヲ省略スルコトヲ得

昭和十八年十一月一日

海軍大臣

○通牒

海人機密第一二二號

昭和十八年十一月二日

海軍省人事局長

各廳長殿

退職賞與ノ取扱ニ關スル件申進

官房人機密第六九二號ヲ以テ退職賞與ノ辭令書ハ當分
ノ間省略シ得ルコトニ定メラレ候處之ガ事務取扱ニ付
テハ左記留意ノ上可然處理相成度

記

一 退職賞與交付ニ際シ受給者(特ニ遺族)ニ對シ辭
令文等ニ依リ交付金ノ性質ヲ了解セシムル如ク處理
スルコト

二 交付ニ方リ正當受給者ガ確實ニ受領シ得ル如ク處
理スルコト

三 辭令文ハ履歷書(表)正本ニ必ず記入スルコト

公稱番號	船種	所屬	別定數	記事
第二五二號	内火艇 (九米)	横須賀海軍 港務部 (トラック運 輸部)	臨時 附屬	特設砲艦昭興丸還納ノ モノ(M七五〇)

官房軍第一二四九號
横須賀海軍工廠保管中ノ九米内火艇(特設砲艦昭興丸
還納)一隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所
屬等ヲ左ノ通定ム
昭和十八年十一月二日
海軍大臣

海軍公報(部内限) 第四千五百三十二號

昭和十八年十一月四日

一一八一

0331

海法機密第四九六號

昭和十八年十月二十五日

海軍省法務局長

各鎮守府法務長
各警備府法務長
各艦隊司令部附法務科士官 殿

犯罪處理ニ關スル件申進

今般政府ニ於テ決戰態勢下特ニ官紀肅正ノ要ヲ認メ收賄罪等ノ規定ヲ整備シ其ノ刑ヲ加重スル爲今臨時議會ニ戰時刑事特別法中改正法律案ヲ提出シ斯ノ種積職罪ノ防止ニ努メツアル處海軍軍人軍屬ハ一般公務員ニ比シ更ニ廉潔ヲ保持スベキモノナルニ拘ラズ部内ニ於ケル收賄被告事件ノ發生依然其ノ跡ヲ絶タザルノミナラズ近來其ノ處理ニシテ稍溫情ニ過ギ適切ナラザルヤニ認メラルル事例モ存スルニ鑑ミ斯ノ種軍紀維持上特ニ有害ナル犯罪ノ處理ニ付テハ此ノ際一層慎重ヲ期スルト共ニ斷乎タル決意ヲ以テ事ニ當リ一罰百戒ノ實ヲ擧ゲ以テ軍紀風紀ノ維持ニ資セシムル様取計ハレ度

艦本機密兵電第一二六二號

昭和十八年十月二十九日

各海軍軍需部長殿

電路兵器引換供給ニ關スル件申進(海軍航空本部關係ヲ除ク各長主管)

海軍艦政本部總務部長

昭和十七年六月三日艦本機密兵電第四九七號通知(同年六月四日附海軍公報(部内限)參照)ニ依リ艦船部隊等ニ裝備シタル物品中電路器具ヲ兵器ニ受入セザル爲海軍制式兵器ト全ク同一ノ電路器具ト雖モ工作廳ニ於テ修理不調ノ際之ガ處理上支障アルヤニ及聞候處自今兵器簿制定セラレアル艦船部隊ニ限り不調證明書ニ據リ在庫ノ電路兵器ヲ引換供給ノ上供給先、品名、數量等通報ノコトニ定タラレ候

寫送付先 各海軍工廠長
各海軍工作部長

○雜款

○試驗問題發送

普通科 運用術 特技章附與第二回銜衡試驗問題
氣象術
右十月二十五日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ海軍航海學校ニ至急通知相成度

0332

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
 - 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事務部及警備府宛送付
 - 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲
聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試驗用
若干部各海軍人事務部宛送付シ置ケツ
- (海軍航海學校)

○事務開始
大湊海軍病院登別分院ハ十月一日北海道幌別郡登別温
泉町ニ於テ事務ヲ開始セリ
電話登別 三九番

三重海軍航空隊奈良分遣隊(假稱)事務所ハ十月二十
五日奈良縣山邊郡丹波市町ニ於テ事務ヲ開始セリ

0333

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十三號

昭和十八年十一月五日(金)

海軍大臣官房

○令 達

官房備第二四七號

昭和十七年官房第七三二一號人夫等使役ニ關スル件中

第三號第二項ヲ左ノ通改ム

昭和十八年十一月四日

海軍大臣

各廳長前項ニ依リ常備人夫ヲ使役シタルトキハ毎年三、六、九、十二月ノ各月頭ニ於ケル現在員數及一人平均基本給料ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス但シ昭和十七年官房第一七一六號ニ依ル工具代用タル常備人夫ヲ含ムトキハ之ヲ區分スルモノトス

(参照) 諸例則卷二、七九八頁、機密會計法規集一五四頁

○通 牒

官房備第五一八號

左ノ各號ニ對スル臨時海軍規格ヲ別紙ノ通定ム

海軍公報(部内限) 第四千五百三十三號

昭和十八年十一月五日

一一八五

別紙ノ海軍艦政本部ニ於テ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和十八年十一月四日

海軍次官

- 一 黃銅板
- 二 ネーバル黃銅板
- 三 ネーバル黃銅棒
- 四 高力黃銅棒
- 五 彈帶銅環
- 六 丹銅板
- 七 丹銅管
- 八 藥莢黃銅圓板
- 九 藥莢黃銅板
- 十 高力黃銅管
- 十一 火管用黃銅棒
- 十二 信管用高力黃銅棒

官房備機密第一四五號ノ二一

昭和十八年十一月五日

各廳長 殿

海軍省 副官

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ一) 中ニ「片岡灣」ウ壹參〇「ヲ加フ

同(其ノ四) 中ニ「カウ灣」セ五四「ヲ加フ

附録部隊區別符表(其ノ一) 中ニ「第四十六防空隊」ウ參〇壹「第四十七防空隊」ウ參〇貳「第四十八防空隊」ウ參〇參「第四十九防空隊」ウ參〇四「第六十七防空隊」ウ參〇八「ヲ加フ

同(其ノ四) 中ニ「工場」ル九八「第二部隊」セ九九「在ボルネオ海軍監督官」セ壹〇〇「ヲ加フ

官房教機密第二八九號

昭和十八年十一月二日

海軍省 副官

關係廳長 殿

海軍兵學校分校ノ呼稱ニ關スル件通牒

來十一月十五日以降海軍兵學校生徒ノ一部ハ岩國ニ於テ教育ノコトト相成候處同校舎ヲ部内限リ海軍兵學校岩國分校ト呼稱スルコトニ定メラレ候

軍務一機密第八六五號

昭和十八年十月二十九日

海軍省 軍務局長
臨時海軍徵備航空輸送本部長

各鎮守府 參謀長
各警備府 參謀長
各艦隊 參謀長

各省內各局局長 殿

定期航空便乘者其ノ他取縮ニ關スル件照會

最近定期航空便乘希望者激増シ各地共人員貨物ノ停滯甚シク現狀ヲ以テシテハ急ヲ要スル人員並ニ貨物ノ輸送ニ支障ヲ來スコト甚大ナルニ付テハ左記事項含ミノ上取縮相成度

一 不急ノ人員、貨物ハ極力船便等利用ノコトニ取計相成度

二 私用貨物ノ取扱ハ之ヲ行ハザルコト

近來私物ヲ托送シ又ハ軍公用物ヲ裝ヒ私物ヲ托送ス

記

一 不急ノ人員、貨物ハ極力船便等利用ノコトニ取計相成度

二 私用貨物ノ取扱ハ之ヲ行ハザルコト

近來私物ヲ托送シ又ハ軍公用物ヲ裝ヒ私物ヲ托送ス

0335

- ル向多ク急送貨物ノ輸送ニ支障ヲ來ス事甚大ナルノ
ミナラズ内容課税品ニシテ税關ニ摘發セラレ問題ヲ
惹起シタル例モアリ嚴重取締相成度
- 三 私有郵便物ノ托送ハ取扱ハザルコト
公用封筒ニ入レ送付セラル、向アルモ本件ハ郵便法
違反タルノミナラズ手數ヲ要シ迷惑少カラザルニ付
取締相成度
- 四 搭乗者貨物制限
特ニ南方ヨリノ歸還者ニシテ貨物ノ規定量ヲ超過ス
ルモノ多ク飛行場ニ持參シ荷物處理ノ時間ナントノ
理由ニ依リ係員ノ制止ニモ不拘一人ニテ五十疋乃至
七十疋ニ及ブ荷物ヲ強引ニ持込ム者アリ内容モ毛
布、牛皮其ノ他目ニ餘ルモノアリ
本件ハ飛行機ノ保安上ニモ關係アルヲ以テ係員ノ指
示ニハ絕對ニ從ハシムル様注意相成度
尙超過貨物ハ之ヲ搭載セズ飛行場ニ留置キ船便ニヨ
リ後送スル等ノ方法ヲ講ズル事ヲ致度
- 五 便乗者ニシテ飛行機ノ行動ニ關係容喙セル例アリ
シモ機ノ保安ハ機長ノ絕對責任ナルニ付テハ斯ル事
ナキ様取締相成度
- 六 一般部外者ハ有料取扱ノコトト爲リタルモ營業定

期ニ非ズ之ガ便乘許可範圍ハ從前通ナルニ付之ガ人
選ニハ充分留意相成度

軍需二機密第八號ノ二四六
昭和十八年十一月一日
海軍省軍需局長

關係各廳長殿
戰車、裝甲車及陸戰用索引車運轉用燃料
ニ關スル件通牒

自今戰車、裝甲車及陸戰用索引車運轉ニ要スル燃料ハ
輕油ヲ使用ノコトニ定メラレ候
追テ昭和十七年軍需機密燃第九七號二號重油使用區
分細目ニ關スル件通牒ハ之ヲ廢止ス

○ 辭 令

まがね丸二等機關士 大林 定太郎
囑託（部内限奉任官待遇）ヲ命シ報酬年額九百七拾
貳圓ヲ給ス（昭和十八年海軍省）
臺灣總督府技師 橫井 憲一
海南警備府ニ於ケル業務囑託ヲ解ク（昭和十八年同）

海軍公報（部内限）第四千五百三十三號

昭和十八年十一月五日

二一八七

0336

ニューギニア政府囑託

貳千五百拾圓

大山 俊雄

(各)

貳千五百拾圓

平山 常吉

同

千參百圓

大平 辰秋

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(二〇〇同)

(各通)

水柿 秀男

篠崎 五郎

ニューギニア政府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(三〇同)

相原 經男

海南海軍特務部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(二〇〇同)

諸 橋 渡

第一海軍工作部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(三〇同)

芦名 庄助

第一南遣艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(二〇〇同)

天野 治良

スラバヤ海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

深谷 富之助

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上二〇〇同)

地質調査所技師 加來 一郎

マカツナル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス(二〇〇同)

坂野 通夫

ジャカルタ在勤海軍武官ノ事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二〇〇同)

益田 貞信

フィリピン國在勤帝國大使館附海軍武官ノ事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二〇〇同)

葛田 三雄

第一南遣艦隊齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二〇〇同)

遞信省事務官 小田 庄市

第二南遣艦隊司令部附ヲ免ス

遞信局書記 中山 幸二郎

第八艦隊司令部附ヲ免ス

0337

農林技手・桃山直市

第二南遣艦隊司令部附ヲ免ス(計二名同)

原口健三

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省
調査課ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

夏目正夫

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解キ南西方面海軍
民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬如故)

海軍經理學校印字教授囑託

竹内甚一

千八百圓 同 應用理化學教授囑託

千貳百圓 同 齋藤俊吉

千貳百圓 同 商工政策教授囑託

千貳百圓 同 田邊忠男

九百圓 同 倫理學教授囑託

九百圓 同 小尾範治

千八拾圓 同 商法學教授囑託

千八拾圓 同 石井照久

七百八拾圓 同 漢文學兼支那語教授囑託

七百八拾圓 同 竹田復

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ贈(給)與ス(以上)

(計四名)

柴田正元

第一海軍燃料廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑
託ス

但シ報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官
待遇トス

川島滿雄

第一海軍航空廠工員養成所劍道教師ヲ囑託ス

但シ報酬年額四百八拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス

黒坂淳彦

第二海軍航空廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑
託ス

但シ報酬年額貳千貳百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官
待遇トス

佐藤玄

第四海軍燃料廠ニ於ケル醫療業務囑託ヲ解ク

椎谷浜三郎

第一海軍燃料廠工員養成所教務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待
遇トス

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ贈(給)與ス(以上)

海軍公報(部内限)第四千五百三十三號 昭和十八年十一月五日

一一八九

0338

第二海軍衣糧廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑託ス

堀川 清

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

片山 良行

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額參千六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上社同)

○ 雜 款

○取消

十月十三日附公報(部内限) 號外辭令欄五頁下段八行目「遠山光正」同一六頁下段十八行目「色川康夫」ノ辭令ハ孰モ取消

○正誤

十月二十九日附公報(部内限) 官房經第一一七五號様式貳第二中「海軍省經理局」トアルハ「海軍省軍需局」ノ誤
(海軍省醫務局)

0339

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十四號

昭和十八年十一月六日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房經機密第七九九號

當分ノ間艦船部隊ニ勤務スル傭人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ雇員傭人規則第十三條ノ規定ニ依ル制限ニ拘ラズ一時所管鎮守府海兵團ノ定員外トシテ轉傭シ又ハ當該艦船部隊ノ定員外トシテ取扱ヒ之ガ代員ヲ補充スルコトヲ得

一 乘組艦船沈没其ノ他ノ事由ニ依リ所轄ナキニ至リタルトキ

二 戰傷病ニ依リ療養ヲ命ゼラレ當分快復ノ見込ナキトキ(當該艦船部隊ニテ急速代員ノ補充ヲ要スル場合ニ限ル)

前項ノ規定ニ依リ定員外傭人ヲ保有スルニ至リタルトキハ其ノ都度其ノ職種、氏名及給料ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス

昭和十七年官房經機密第八五四號ハ之ヲ廢止ス

海軍公報(部内限) 第四千五百三十四號

昭和十八年十一月六日

一一九一

○通 牒

經機密第三號ノ九六

昭和十八年十一月五日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

小スンダ列島チモール島「クーバン」

緬甸 甸 國 「マイミョウ」

軍需衣第一五七號

昭和十八年十一月五日

各廳長殿

海軍省軍需局長

准士官以上防著作業衣袴貸與ノ件通知

昭和十八年軍需衣第六號(同年一月十三日海軍公報(部内限))ヲ以テ首題物品ノ貸與ハ昭和十八年度限り廢止豫定ノ旨内報致置候處資材其ノ他ノ關係上當分ノ間之ヲ延期シ規定通貨與ノコトト相成候條了知相成度
追テ内地ヨリ前線ヘノ赴任者ニ在リテハ新樣式ノ防暑服(近ク公布セララル豫定)ヲ成ルベク調製セシメララル様指導相成度

軍需衣第一五八號

昭和十八年十一月五日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

死體ニ附著スベキ被服ニ關スル件照會

下士官及兵其ノ他死亡ノ場合ニ於ケル首題ノ件ニ關シテハ海軍給與令施行細則第九十二條及同第十三表ニ規定セラレ居候處必要アルトキハ同條但書ニ依ル被服物品ノ一部又ハ單長白衣ヲ棄却燒却スベキモノトシテ死體ニ附著セシメ差支無之候

○ 辭令

海軍軍醫中將 保利 信明

海軍武官任用委員ヲ命ス

海軍生徒採用試驗常置委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

海軍規格審議會議員ヲ命ス

能率増進對策調査委員會委員ヲ命ス(陸海軍省)

○ 雜款

○書類配付ニ關スル件照會

北東方面艦隊司令部宛及第十二航空艦隊司令部宛ノ書類ヲ別個ニ配付サルル向有之候モ右ハ其ノ必要ナキニ付可然取計相成度
(北東方面艦隊司令部)
(第十二航空艦隊司令部)

○事務開始

岡山海軍航空隊(假稱)設立準備事務所ハ十月十日吳海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○本日普通公報發行セズ

海軍公報(部内限)號外

昭和十八年十一月六日(土)
海軍大臣官房

○雜款

出征軍人軍屬及在支警察官並三其遺族等慰問金釀出金明細表(八月分)

一金五千五百九拾四圓拾六錢也

内譯

應名	金額	應名	金額	應名	金額	應名	金額
海軍大臣官房	四九〇	同 教育局	七八〇	海軍航空本部	一九五〇	侍從武官府	一三五〇
海軍省調査課	三三三〇	海軍省軍需局	一〇六四九〇	海軍施設本部	二〇八一七〇	海軍水路部	三三〇六〇
同 電信課	三〇三〇	同 醫務局	三三三〇	南方政務部	三二七〇	海軍技術研究所	四七六〇
海軍文庫	七四〇	同 經理局	一五二〇〇	海軍運輸本部	三三三〇	海軍大學校	一七七〇
海軍省軍務局	一三三九〇	同 法務局	三三〇〇	海軍功績調査部	四九一五〇	海軍軍醫學校	二六〇四七〇
同 兵備局	二七六〇〇	軍令部	五〇三三〇	同 潜水艦部	一六九三〇	橫須賀鎮守府軍法會議	三三六〇
同 人事局	七五五〇	海軍艦政本部	九三二五〇	東京海軍監督官事務所	三〇二六〇	橫須賀海軍刑務所	二二四〇

海軍公報(部内限)號外

0342

横須賀海軍病院	三六〇五〇	光海軍工廠	三五八一〇
同 港務部	五九六〇	大阪海軍監督官事務所	一五〇三〇
佐世保鎮守府	六三三〇	八幡海軍監督官事務所	三三〇〇
同 軍法會議	一七三〇	名古屋海軍監督官事務所	六九〇三〇
佐世保海軍刑務所	一三〇〇	福岡海軍監督官事務所	二六三三〇
大湊海軍工作部	二七六二〇	玉野海軍監督官事務所(六月分)	一九九一〇
嬉野海軍病院	三三六七〇	廣島海軍監督官事務所(六月分)	二八四五〇
第四十一海軍航空廠	六六八〇	大阪地方海軍人	一三七五〇
豊川海軍工廠	六二五〇	大村海軍病院	二三五五〇

昭和十八年九月三十日

海軍省經理局

海軍主計少佐 山内 伸穂

0343

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十五號

海軍大臣官房

昭和十八年十一月八日(月)

○ 令 達

官房經機密第八〇五號

當分ノ間戰地ニ在ル海軍ノ各部ニ屬スル囑託者、傭人代員、人夫等ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ賞與ヲ支給スルコトヲ得

昭和十八年十一月六日

海 軍 大 臣

一 受給者ノ範圍

別ニ定ムル所ニ依リ年末賞與、年度末賞與等ノ支給ヲ受クル者ヲ除キ左ニ該當スルモノトス

(イ) 昭和十七年官房第一七一六號ニ依ル人夫ニシテ常傭人夫タルモノ

(ロ) 昭和十七年官房第三〇七一號ニ依ル囑託者及傭人代員

(ハ) 昭和十七年官房第七三二一號ニ依ル常傭人夫

(ニ) 昭和十八年官房備機密第五〇號ニ依ル臨時傭人

二 支給時期

一 會計年度ヲ通ジ一回又ハ二回トシ所屬長官ヲ定ムル所ニ依ル

三 支給金額

(イ) 一會計年度ヲ通ジ一人ニ付基本給料一月分(日給者ハ三十日分)以内トス

(ロ) 所屬長官ハ現地ニ於ケル陸軍共ノ他一般給與ノ狀況ヲ勘案シ適宜給否ヲ決定スルト共ニ勤續期間、勤怠、給料等ニ應ジ適當ナル支給標準ヲ定ムルモノトス

四 支辨科目

各基本給支辨科目ニ依ル

五 其ノ他

本令ニ依ル賞與ヲ支給シタルトキハ其ノ都度月給者及日給者ニ區分シ支給標準、支給員數及支給金額ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス

官房經機密第八〇六號

昭和十七年官房機密第四一四六號中左ノ通改正ス

海軍公報(部内限) 第四千五百三十五號

昭和十八年十一月八日

一一九三

0344

昭和十八年十一月六日

海軍大臣

第一條中「本邦及南方占領地域(以下現地ト稱ス)」ヲ「本邦(内南洋ヲ除ク)並ニ内南洋及南方占領地域(以下現地ト稱ス)」ニ改ム
第二條中表ヲ左ノ如ク改ム

契約擔任官	經理局長	契約事項
現	本邦	輸出物資ノ本邦ニ於ケル取得 輸入物資ノ本邦ニ於ケル賣拂
現	其ノ他ノ經理部(支部)	輸出物資ノ現地ニ於ケル取得 輸入物資ノ現地ニ於ケル賣拂 現地間交流
特設經理部(支部)長	民政府又ハ民政部(支部、出張所、州知事廳ヲ含ム)勤務ノ首席主計科士官	民政府又ハ民政部(支部、出張所、州知事廳ヲ含ム)所在

其ノ地勤務ノ特設經理部首席部員	所在地 其ノ他ノ地	物資ノ取得 及賣拂
-----------------	--------------	--------------

(參照) 昭和十七年官房機密第四一四六號ハ軍需品以外ノ對南方交流物資ノ取得及賣拂手續ノ件ナリ(機密會計法規則集四〇頁)

○ 通 牒

軍務一機密第八七八號
昭和十八年十一月四日
海軍省軍務局長
關係各廳長殿

雜役船使用實績報告ニ關スル件通知
昭和十四年軍務一機密第一四一號照會ニ依ル首題使用實績ノ報告ハ廢止セラレ候
(參考)

軍務一機密第一四一號
昭和十四年四月一日
海軍省軍務局長

0345

關係各廳長殿

雜役船使用實績ニ關スル件照會

雜役船建造(改装)計畫ニ資スル爲當分ノ間昭和十二年一月以降竣工ノ左記雜役船ニ對シ昭和十年內令第六八號艦船使用實績報告規則ニ準ジ其ノ使用實績(毎年十一月一日調)ヲ通知アリ度
但シ本年ニ限リ右使用實績ハ四月一日調及十一月一日調(四月一日通知濟ノモノヲ除ク)トシ通知アリ度

記

救難船、曳船(百噸以上、驅潛艇型、砲艇型及敷設艇型)、飛行機救難船、内火艇(魚雷追躡用及砲艇型)、長官(司令官)艇、特型運貨船、飛行機運搬船、魚雷運搬船、高速魚雷艇、重油船(自走)、揮發油船(自走)、起重機船、浚渫船、岩碎船、浮船渠、測量艇、動力船、消火艇、電纜敷設船、海洋觀測船、冷凍船

經豫機密第四號ノ二三

昭和十八年十一月八日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

常備人夫ニ賞與不給ニ關スル件申進

海軍公報(部内限)第四千五百三十五號

昭和十八年十一月八日

一一九五

今般官房經機密第八〇五號ニ依リ賞與支給ノ件令達相成候處今後常備人夫ニ對シテバ定期一般賞與ヲ支給セラレザル内意ニ付從來常備人夫ニシテ定期賞與ノ支給ヲ受ケタル少數ノ内地人及支那人ハ必要ニ應ジ左記ニ依リ特別措置實施方可然取計相成度

記

- 一 内地人タル常備人夫ハ必要ナル給料ノ改訂ヲ行ヒ定員外トシテ成ルベク雇傭人又ハ工員ニ身分ヲ變更スルコト
- 二 支那人タル常備人夫ハ定員ノ範圍内ニテ大正十四年官房第四八〇號ニ依ル傭人代員ト爲シ差支ナキモ必要ナル給料ノ改訂ヲ行ヒ成ルベク之ヲ常備人夫ノ儘トスルコト
- 三 前各號ニ依リ特別措置ヲ行ヒタルトキハ職種、氏名及給料(新、舊)ヲ海軍省經理局長ニ通報スルコト

○ 辭 令

(各通)	千六百五拾圓	谷口 清治
	千四百七拾圓	田中 淑造

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限委任官

待遇トス(五海軍省)

阿江 勇

徵用中年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
(九同)

大湊海軍施設部徵用員 豊村 清

(各通) 同 仁尾 博

同 三輪 正次

同 山下 亮二

舞鶴海軍施設部ニ配屬ス 梶浦 弘

佐世保海軍施設部ニ配屬ス 立木 十六

佐世保海軍施設部徵用員 庄司 憲太郎

第百二海軍施設部ニ配屬ス 千參百圓

(各通) 千貳拾圓 小岩 正男

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(以上五同)

内務事務官 岩永 賢一

第八艦隊司令部附ヲ免ス(五同)

臺灣總督府州事務官 矢野 謙三

海南警備府附ヲ免ス(五同)

海軍大將子爵 加藤 隆義

海軍中將 澁谷 隆太郎

同 保科 善四郎

海軍少將 澤田 虎夫

同 足立 助藏

海軍主計少將 横尾 石夫

海軍大佐 松尾 實

同 堀内 茂忠

同 山本 善雄

同 秋重 實恵

同 今田 乾吉

海軍中佐 三木 榮助

同 君嶋 武彦

同 安増 昇

同 加藤 武夫

同 岡本 孝一

海軍少佐 古田 豊作

海軍主計中佐 中野 英夫

海軍技術大佐 佐々川 清

海軍技師 本村 山三

(各通)

0347

同 角田 治郎

横須賀方面海軍工作廳等查察官隨員ヲ命ス

(各通)

海軍少佐 松添 正造

海軍理事官 平田 豊年

横須賀方面海軍工作廳等查察官附ヲ命ス(以上ハ前同)

○ 雜 款

○事務引繼

在佛印臨時資金前渡官吏十月十日附事務引繼ヲ了ス

前任

海軍主計中佐 増澤 英一

後任

海軍主計少佐 吉岡 秀之

海軍少佐從六位勳四等池田福太郎十月十四日死去、同月十八日鹿兒島海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

海軍公報(部内限) 第四千五百三十五號

昭和十八年十一月八日

一一九七

0348

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年十一月八日(月)
海軍大臣官房

○郵便物發送先通知 (宛先ハ下段ノ通記載ノコト)

○艦船ノ部

一 朝風、夕張、望月、卯月、平安丸

一 呂百十一潛

一 第五十一航空戦隊司令部

○陸上ノ部

一 第四十四防空隊

一 第五〇一航空隊

一 第二十一防疫班

一 三重航空隊奈良分遣隊事務所
(假稱)

一 在ボルネオ海軍監督官

一 第四十六防空隊

一 第四十七防空隊

一 第四十八防空隊

横須賀局氣付 朝風、夕張、望月、卯月、平安丸

佐世保局氣付 呂百十一潛

豊橋航空隊氣付 「ウ壹〇九」

横須賀局氣付 「ウ壹〇五ウ貳七參」

同 「ウ壹〇五ウ壹〇壹」

佐世保局氣付 「イ壹壹イ八〇」

奈良縣丹波市町 三重航空隊奈良分遣隊事務所

海軍省第四分室内 「セ壹〇〇」

館山砲術學校内 「ウ參〇壹」

同 「ウ參〇貳」

同 「ウ參〇參」

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

0349

一 第四十九防空隊
一 第五十防空隊

同 同

「ウ參〇四」
「ウ貳八八」

0350

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十六號

昭和十八年十一月九日(火)

海軍大臣官房

○ 辭 令

兼浦賀海軍監理官ヲ免ス
地方勞務官 酒井 壬子男

同 小牧 泰介

兼浦賀海軍監理官ヲ命ス(以上ヲテ海軍省)

海軍大佐 有馬 成市

海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス

地方事情查察委員會委員ヲ命ス

海軍少佐 藤 森 康男

恩賜研究資金受賞者銓衡常置委員ヲ命ス

防備關係調査研究委員會第一分科會委員ヲ命ス(以上同)

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更
第九驅逐隊司令ハ十月二十九日司令驅逐艦ヲ霞ニ變更

セリ

○司令潜水艦變更
第七潜水隊司令ハ十月二十八日司令潜水艦ヲ伊號第五潜水艦ニ變更セリ

○事務開始
艦屋艦裝員事務所ハ十月二十八日長崎海軍監督官事務所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○朝霜艦裝員事務所ハ十一月二日藤永田造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
御藏艦裝員事務所ハ十月三十日之ヲ撤去セリ
千珠艦裝員事務所ハ十月三十日之ヲ撤去セリ

○正誤
十月二十五日附海軍公報(部内限)官房備第二三七號標題中「同施行細則」ハ「同施行規則」ノ誤

海軍公報(部内限) 第四千五百三十六號

昭和十八年十一月九日

一一九九

0351

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日(水)

海軍大臣官房

○令達

官房第一二七〇號

第百一海軍工作部ニテ建造保管中ノ九米内火艇三隻ヲ
雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬ヲ左ノ通定
ム

昭和十八年十一月九日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	記事
第二六六號	内火艇 (九米)	佐世保海軍港 務部	臨時附屬	
第二六九號	同	第一南遣艦隊 司令部(第十 三根隊)地 隊		
第二六〇號	同	同		

官房人機密第七六八號

當分ノ間鎖守府司令長官ハ在籍ノ特務士官、准士官、
下士官及兵中通信諜報業務ニ從事シ外信傍受又ハ方位

海軍公報(部内限) 第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日

一一〇一

測定技備優秀ニシテ將來該勤務ニ從事セシムルヲ適當
ト認ムル者ニ就キ機宜特務士官及准士官ニ在リテハ高
等科電信術ノ特信班ヲ、下士官及兵ニ在リテハ其ノ特
技章ノ種別ニ從ヒ高等科電信術練習生又ハ普通科電信
術練習生ノ特信班ヲ専修シタル者ト看做スコトヲ得

昭和十八年十一月九日

海軍大臣

官房教第一〇〇號ノ三

左ノ各號ニ依リ官房教第一〇〇號ノ二ニ依ル體育講習
ヲ施行ス

所屬長官ハ第三號ノ講習員ヲ講習開始前日迄ニ横須賀
海軍砲術學校ニ派遣スルト共ニ其ノ官階氏名ヲ講習開
始三日前迄ニ横須賀海軍砲術學校長ニ通報スベシ

昭和十八年十一月九日

海軍大臣

一 講習場所

横須賀海軍砲術學校

二 講習期間

自昭和十八年十一月二十日
至昭和十八年十二月十九日

三 講習員

派遣先	員數		記 事
	准士官 <small>(教授、 補助、 嘱托)</small>	下士官	
海軍兵學校	二	一〇	講習員數ハ 狀況ニ依リ 適宜増減ス ルコトヲ得
海軍機關學校	一	五	
海軍經理學校	一	三	横砲校 ヲ除ク
各術科學校	一	三	
各海兵團	一	五	
各練習航空隊	一	三	
各海軍病院 練習部		一	

四 講習要領

主トシテ體操ニ付實施スルモノトス

五 旅 費

講習員ノ旅費ハ昭和十八年官房經第七號ニ依リ請求
ヲ俟テ別途配布ス

官房艦機密第一三四五號ノ二
昭和十八年官房艦機密第一三四五號別冊艦船造修規則
及兵器造修規則ニ依ル諸公試、諸試驗中一部省略實施
要領中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月九日

海 軍 大 臣

兵器造修規則ノ部第四號魚雷兵裝公試(イ)中「深々
度冷走發射」ヲ「水上冷走發射」ニ改ム

官房艦機密第五六四一號

戰時内國部外製造所ニ於テ建造スル潜水艦ノ諸公試試
驗ハ艦船造修規則第九十七條第一項第一號、兵器造修
規則第五十四條第二號及大正十四年達第九號ノ規定ニ
拘ラズ左ノ各號ニ依リ實施スルモノトス但シ本方式ヘ
ノ移行ハ各建造所ノ實情ニ即シ逐次之ヲ實施スルコト
ヲ得

昭和十八年十一月九日

海 軍 大 臣

- 一 潜水艦ノ指揮ハ艦裝員長之ヲ行ヒ當該建造所ノ指定スル操縦主任ハ艦裝員長ノ輔佐ニ任ズルモノトス尙情況之ヲ必要ト認メタル場合又ハ艦裝員長事故ノ爲操縦シ得ザル場合ハ操縦主任自ラ之ニ當ルモノトス
- 二 兵器、機關其ノ他諸裝置等ノ操縦取扱ハ極力艦裝員及艦裝員附ヲシテ之ニ當ラシメ當該建造所係員之ヲ指導輔佐スルヲ建前トス但シ要スレバ當該建造所係員ヲ主トシ艦裝員及艦裝員附ヲ副トシテ配置スルコトヲ得
- 三 諸公試、同豫行運轉ノ場合總乘艦者數ハ要スレバ潜水艦定員ノ二・二倍以內トスルコトヲ得
- 四 遭難其ノ他事故發生ノ場合ニ於ケル處置要領左ノ如シ
 - (イ) 事故發生原因ニ對スル官責任ノ有無ノ判定ハ損害輕微ノモノ(死亡者無ク負傷者ノミノ場合)又ハ損害見込額概ネ五萬圓程度以下ノ場合)ニ付テハ所在海軍監督長(首席海軍監督官)ヲ認定ニ依ルモノトシ然ラザルモノニ付テハ別ニ定ムル事故調査委員會ノ決定ニ依ルモノトス
 - (ロ) 責任官ニ在リト認定セラレタル場合ハ左ノ各號

- ニ依リ官ノ負擔ヲ以テ損害補償及慰藉ヲ行フモノトス
- (一) 人員
 - (1) 死傷者ニ對スル慰藉ハ業務死傷者ニ對スル當該建造所ノ給與額ノ範圍內ニ於テ官ノ適當ト認メタル金額ヲ以テス
 - (2) 慰藉金ハ海軍ヨリ建造所ニ支拂ヒ建造所ヨリ其ノ名ニ於テ本人又ハ遺族ニ之ヲ交付スルモノトス
 - (二) 船體、兵器、機關其ノ他

船體、兵器、機關其ノ他物件ノ滅失、毀損ニ對スル補償ハ損害(建造保險ノ填補金アル場合)ハ其ノ超過額)ノ全額ノ範圍內ニ於テ官ノ査定スル金額ヲ以テス
 - (三) 契約擔任官損害補償及慰藉ノ金額決定ニ當リテハ一艦毎ニ一括海軍大臣ノ決裁ヲ經ルモノトス

○ 通 牒

軍務第二一三號
 昭和十八年十一月九日

海軍公報(部内限)第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日

一一〇三

0354

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

水上艦船裝備ノ電路蒸氣管送氣管及水壓管ノ主管別ニ關スル件申進

首題ノ件十一月九日達第二百七十一號ノ通定メラレタル處電路諸管ハ裝備ノ關係上主管別標準ニ依リ難キ部分モ在ルベキニ付此等部分ニ對シテ各艦船ニ於テ適當ニ主管別ヲ定メ主管別不明ノ爲整理上遺憾ノ點ナキ様可然取計相成度尙兵器簿(電氣兵器)ノ改正間ニ合ハザル場合ハ電氣兵器ノ主管別ハ該主管別標準ニ依リ取扱ノコトニ了知相成度

○ 辭令

永福丸通信局長 阿部 丈夫

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千六百參拾貳圓ヲ給ス(昭和十八年海軍省)

宇治丸機關長 中村 一榮

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千貳百貳拾四圓ヲ給ス(昭和十八年)

興義丸機關長 田村 政吉

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千四百四

拾圓ヲ給ス

たつ丸機關長 石橋 正治

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額千八百參拾六圓ヲ給ス(以上報酬同)

(各通) 貳千五百拾圓 金田 數男

千六百五拾圓 中村 愈

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

村林 榮一

ジャカルタ在勤海軍武官ノ事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上計同)

水野 忠一

第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

高木 彰

(各通) 千六百五拾圓 加藤 亮一

千四百七拾圓
南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

0355

待遇トス(以上ヲ指シテ)

千參百八拾圓

(各通) 千參百貳拾圓

千貳拾圓

徵用中年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奉任官待遇トス(五九四同)

マカツサル研究所ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(計五九四同)

(各通) (幹事)

海軍大佐 中野 實
海軍中佐 柴田 音吉
同 桑原 尙雄
海軍技師 田邊 一雄

陸海軍(除航空)技術委員會委員ヲ命ス

海軍技術大佐 伊藤 庸二
海軍技術少佐 高橋 修一
海軍技師 西原 貢

陸海軍(除航空)技術委員會委員ヲ免ス(計四四同)

八木 健三
鈴木 誠
小林 宏志

(各通)

田中正四
出口官三

ニューギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

宇都宮高等農林學校教授 森 本 勇
岐阜高等農林學校教授 松山 三樹男
東京科學博物館學藝官 佐竹 義輔

同 井尻 正二
同 杉山 隆二

(各通)

東京農業專門學校教授 長戸 一雄
大阪高等學校教授 小島 信夫
資源科學研究所員 津山 尙

同 石橋 正夫

ニューギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

梅垣 嘉治
三木 茂

坪井 國夫
太田 恭

阿部 辰三
米谷 信義

(各通)

海軍公報(部内限)第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日

二一〇五

0356

木 幡 行

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス(以上同)

在「フイリピン」國駐
在海軍主計中尉 青山 久二

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(同) 支出官 海軍省經理局長)

第二四一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ

爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(同) 同 高島 慶之助

特務艦失風ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス 同 高橋 良夫

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上同) 海軍主計兵曹長 今井 二男

第三十一驅潛隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス 同 小杉 虎吉

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上同) 同 田島 勇次

第二十二根據地隊「ボンチアナク」派遣隊ニ要スル

石倉 寛治

長 澤 徹

野田 光雄

兼松 四郎

山本 保男

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省

南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

鈴木 玄

土浦海軍航空隊劍道教授囑託ヲ解キ松山海軍航空隊

劍道教授ヲ囑託ス(報酬如故)

京都帝國大學教授 梶 田 茂

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省

南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

泉 靖一

淺野 清

ニユーギニア民政府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海軍省

南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

海軍省南方政務部事務囑託

林 文三郎

兼テ海軍省經理局ニ於ケル事務ヲ囑託ス(待遇如故)

0357

給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納
官吏ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス(註同)

○ 雜 款

○ 旅費支給ニ關スル件

當隊ハ舊橫濱海軍航空隊ニシテ橫濱航空基地ニ常駐シ
アルモ往々ニシテ概算拂又ハ未給ノ儘退任(轉勤)セ
シメラル向有之事務處理上支障不尠自今昭和十一年經
給第四三號ニ依リ湘南富岡迄前金拂相成度

(第八〇一海軍航空隊)

○ 轉勤者ニ關スル件

今期補充交代ニ依ル當司令部ヘノ轉入者ハ第八潜水艦
基地隊内第七潜水戰隊司令部ニ向ケ轉勤セシメラレ度
(第七潜水戰隊司令部)

○ 補給主任設置

當分ノ間第一百海軍軍需部ニ於テハ兵備品ノ補給主任
ハ本部ニノミ置クコトト致候條了知相成度

(第一百海軍軍需部)

○ 事務開始

「フィリッピン」國在勤帝國大使館附海軍武官事務所ハ
十月十四日「マニラ」市平和通六五〇ニ假設置シ事務

ヲ開始セリ

電話マニラ 五六八三一番

特設砲艦南海事務所ハ十月十六日七二二七二四第二分
工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

「ダバオ」在勤海軍武官府ハ十月二十七日「ダバオ」市
「テオンコ」町ニ於テ事務ヲ開始セリ

「セブ」在勤海軍武官府ハ十月二十八日第三十一警備
隊「セブ」派遣隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第二十六特別根據地隊事務所ハ十一月五日吳海兵團内
ニ於テ事務ヲ開始セリ

海軍公報(部内限) 第四千五百三十七號

昭和十八年十一月十日

一二〇七

0358

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十八號

昭和十八年十一月十一日 (木) 海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第八二二號

昭和十六年官房機密第一二六五三號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十日

海 軍 大 臣

第四表備考第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 糧食ノ支給ヲ受クル者ニ食料又ハ適宜ノ糧食ヲ

支給スル要アルトキハ一食ニ付三十五錢以内ニ於

テ之ヲ支給スルモノトス

(参照) 海軍機密會計法規類集一〇一頁

官房經第一二二一號

當分ノ間海軍内國旅費規則第十一條ノ規定ニ該當スル

者ニシテ海軍病院入院中歸郷療養ヲ命ゼラレ歸郷地ニ

滞在スルモノニハ該地到着ノ日ノ翌日ヨリ其ノ地發程

ノ日ノ前日迄左ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

昭和十八年十一月十日

海 軍 大 臣

士官、特務士官

高等文官同待遇者

部内限高等文官待遇者

准士官、判任文官同待遇者

部内限判任文官待遇者

下士官兵、雇員、傭人、工員

官房經第一二二二號

昭和十七年官房第六六四三號中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十日

第一項中「昭和十七年閣令第二十五號」ヲ「昭和十八

年閣令第二十四號」ニ改ム

(参照) 海軍會計法規類集二卷四八四ノ二頁

○ 通 牒

官房機密第四二四號

昭和十八年十一月一日

海軍公報 (部内限) 第四千五百三十八號

昭和十八年十一月十一日

二二〇九

0359

關係各廳長殿 海軍省 副官

海軍兵備品會計規程戰時特例ノ施行ニ伴
フ軍事教育圖書竝ニ秘密圖書經理規程ノ
施行方等ニ關スル件通牒

官房經第一〇三二號ニ依ル首題特令施行ニ伴、軍事教育圖書竝ニ秘密圖書ニ關スル經理規程ノ施行方其ノ他ニ關シテハ左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 軍事教育圖書經理規程第九條前段、第十條竝ニ秘密圖書經理規程第八條及第十三條中兵備品取扱主任ニ關スル規定ハ之ヲ兵備品補給主任ニ準用スルモノトス
- 二 兵備品會計官吏ハ供給簿ヲ備ヘ所管ノ艦船部隊等ニ對スル圖書ノ供給狀況ヲ明ニスルト共ニ供給漏無キ様機宜ノ處置ヲ講ズルモノトス
- 三 兵備品會計官吏他所管兵備品補給主任又ハ兵備品取扱主任ニ圖書ヲ供給拂シ又ハ之ヨリ還納受シタルトキハ所管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ通報スルモノトス(證憑(寫)送付)
- 四 兵備品補給主任相互間ニ於テ圖書ヲ供給拂シタル

トキハ供給拂シタル兵備品補給主任ハ各兵備品補給主任所管ノ海軍軍需部兵備品會計官吏ニ通報スルモノトス(證憑(寫)送付)
兵備品取扱主任相互間ニ於テ圖書ヲ供給拂シタル場合亦同シ

五 兵備品補給主任兵備品取扱主任ニ圖書ヲ供給拂シ又ハ之ヨリ還納受シタルトキハ所管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ通報ス(證憑(寫)送付)
兵備品補給主任ト兵備品取扱主任所管ヲ異ニスルトキハ各其ノ所管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ對シ之ヲ通報スルモノトス(證憑(寫)送付)

六 兵備品補給主任及兵備品取扱主任其ノ保管圖書中廢版ト爲リタルモノアリタルトキハ燒却處分ノ上燒却通知票ニ表紙ヲ添附(秘以上ノミ)シ所管海軍軍需部ノ兵備品會計官吏ニ送付スルモノトス

七 補給主任ハ毎月頭現有報告(圖書名、標記番號、數量記載)ヲ海軍文庫及所管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ送付スルモノトス

八 艦船轉籍等ニ依リ其ノ所管海軍軍需部變更サレタルトキハ舊所管海軍軍需部兵備品會計官吏ヨリ新所管海軍軍需部兵備品會計官吏ニ供給圖書名、數量及

0360

小番號ヲ通知スルモノトス

軍需機密需第七六六號

昭和十八年十一月九日

海軍省軍務局長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

陸上部隊進出時ノ供給材料ニ關スル件申進

特別陸戰隊、防空隊其ノ他新設陸上部隊進出時携行スル各種應急器材中各工廠、工作部(特設工作部ヲ含ム)又ハ施設部(特設施設部ヲ含ム)ニ於テ調達困難ナルモノニ對シ當該部隊ヨリ要求アリタル場合海軍軍需部(特設海軍軍需部ヲ含ム)ハ手持品アルトキハ適宜供給ルモノト了知相成度

追テ昭和十四年八月十七日軍務二機密第二三五二號申進申「作戦用設営材料ハ艦營需品トシ一般家屋、橋梁、道路、飛行場用材料等」ヲ「作戦用設営材料並ニ一般家屋、橋梁、道路、飛行場用材料等」ニ改メラレ候

(艦營需品燃料取扱例規一七二頁参照)

經物第二一五號

昭和十八年十一月九日

海軍公報(部内限)第四千五百三十八號

昭和十八年十一月十一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件
通知

昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件
左記ノ通承認致候

記

會社名	所在地
青木工業合名會社	京都市下京區唐橋維城門一九
株式會社魚津製作所	新潟市元下島町四六五一
株式會社魚津製作所	富山縣新川郡魚津町大字上村木町七七七
大阪電氣鑄鋼株式會社	大阪府豐能郡庄内町大字島江三三三
大崎電氣工業株式會社	東京都品川區五反田一ノ二六三
株式會社大泉工場	川口市領家町五〇八〇
株式會社國友鐵工所	東京都日本橋區吳服橋一ノ一
壽精工株式會社	大阪市天王寺區小橋西之町三六
小池須磨(東洋可鍛鑄工所)	大阪市西成區長橋通六ノ二

0361

株式會社阪口定吉商店	大阪府西區北境川町三ノ二〇	株式會社森幸電機製作所	東京都本所區菊川町一ノ三三
株式會社昭和冷機製作所	東京都蒲田區北糀谷町二一九	株式會社山形鐵工所	大阪府西區木田三番町六九
株式會社須河車體製作所	京都市下京區西九條森本町一三	經物第二二六號	
大日本金粉箔工業株式會社	大阪府西區新町南通四ノ一二	昭和十八年十一月九日	
臺灣合同鳳梨株式會社	臺北市御成町四ノ一二	關係各廳長殿	
合名會社德間工業所	東京都葛飾區小谷野町九三	前金拂又ハ概算拂契約承認者名簿中一部改正ノ件通知	
株式會社東華製作所	東京都葛飾區本田實木塚町三二	昭和十六年經物第一六三號別冊首題名簿中左記ノ通り部改正致候	
東京航空螺子製造株式會社	東京都板橋區小豆澤一ノ八	一 削除者 記	
株式會社中須製作所	東京都麴町區丸ノ内二ノ一〇	會社名	株式會社西海
日滿電氣製鋼株式會社	大阪府南河內郡志紀村大字弓削七七〇	所在地	佐世保市白岳町八二六
日本燃料機株式會社	東京都芝區田村町五ノ九	事由	軍管理工場
株式會社濱田精機鐵工所	東京都東區龜戶町一ノ一三		購買名簿登錄者
合名會社宮下鑄造所	神戸市林田區御藏通四ノ四		同
株式會社名取機製作所	東京都麴町區丸ノ内三ノ一二		
森電機株式會社	東京都大森區大森三ノ三四七		

0362

二改 正

「橋本卯吉(橋本大量炊事器具工場)東京都本所區太平町一ノ一六」ヲ「株式會社橋本大量炊事器具工場東京都本所區太平町一ノ一六」ニ改ム

○ 辭令

事務員 三村 正夫

同 福田 馨

(各通) 同 清水 惣八

同 植木 仁

集配員 内藤 庄平

第十海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

事務員 細川 與志一

第十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

通信書記 松岡 勘三郎

(各通) 同 刀儀 年男

通信書記補 北井 敬治

同 城代 弘一

第二十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

(各通)

集配員 川本 稔

同 池田源五右衛門

同 大西 俊雄

第二十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

遞信局書記 野口 貞雄

第四十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス(以上計勸海軍省)

通信書記 岩下 古好

第三海軍軍用郵便所員ヲ命ス

通信書記補 山口 茂

遞信局書記補 大庭 五郎

第四十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス(以上計勸海軍省)

通信書記 高吉 等

同 稻垣 親

同 五島 正徳

同 原 勳

同 田中 鯨三

通信書記補 清水 秀夫

同 石原 純逸

同 有地 安男

同 青木 一男

(各通)

海軍公報(部内限) 第四千五百三十八號 昭和十八年十一月十一日

一二三

第二特別根據地隊附ヲ免シ東京海軍通信隊附ヲ命ス
海軍書記補 安藤 信雄
通信書記 小出 暉

(各通)

通信書記補 小澤 泰英
同 吉田 勝

東京海軍通信隊附ヲ免シ第四通信隊附ヲ命ス

(各通)

同 第百二海軍燃料廠徵用員 坂倉 勝彦
富樫 文也

第百一海軍燃料廠ニ配屬ス(以上社同)

軍令部部員海軍少佐 藤森 康男

第一部第一課兼同第二課第十二課第二部第三課勤務
ヲ命ス(二海軍司令部)

海軍少佐 藤森 康男

兼參謀部第一部第二課第二部第三課勤務ヲ命ス(二海軍司令部)

大本營海軍部)

海軍中佐 雀部 利三郎

第一課兼第二課勤務ヲ命ス(二海軍省軍務局)

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

普通科 航空兵器術 特技章付與第二回銜試驗問題
整備 術

(試驗施行期日 昭和十八年十二月十三日)

右十一月五日左記ノ通發送濟

記

一 聯合試驗參加不能ト認メラル所轉ヘハ直送

二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部長及各警備府副

官宛送付

三 行動變更其ノ他ノ都合ニ依リ臨時必要ノ分トシテ

若干部數各海軍人事部長及各警備府副官宛送付シ置

ケリ

末着若ハ臨時必要ヲ生ジタル向ハ最寄ノ右諸官ヨリ受

領又ハ直接當司令部ニ請求相成度

(第十八聯合航空隊司令部)

○ 事務開始

呂號第四十七潜水艦艇裝具事務所ハ十一月四日三菱神

戶造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○ 本日普通公報發行セズ

0364

海軍公報 (部内限) 號外

○令達

主部

房軍第一二七八號

本日聯合艦隊司令長官ニ對シ左ノ勅語ヲ賜ハリタリ

昭和十八年十一月十一日

海軍大臣

安田

勅語

(限)

主内

聯合艦隊航空部隊ハ今次「ツロモン」海域ニ於テ勇
戰奮闘大ニ敵艦隊ヲ撃破セリ朕深ク之ヲ嘉ス
惟フニ同方面ノ戰局ハ益多端ヲ加フ汝等愈奮勵努力
以テ朕方信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年十一月十一日(木)

海軍大臣官房

0365

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十八年十一月十一日(木)

海軍大臣官房

○郵便物發送先通知 (宛先ハ下段ノ通記載ノコト)

○艦船ノ部

一 濱風、呂三十六潜、旭東丸

一 那智山丸、第五哨戒艇

○陸上ノ部

一 第二十六特根

一 第五十八防空隊

一 第六十七防空隊

横須賀局氣付 濱風、呂三十六潜、旭東丸

吳局氣付 那智山丸、第五哨戒艇

横須賀局氣付「七五四七壹〇壹」

館山海軍砲術學校内「イ九八」

同 「ウ參〇八」

隊、司令、軍醫長宛
隊機關長、主計長宛

霞
薄雲
(第九驅逐隊)

司令、主計長宛

機關長宛

軍醫長宛

やちよ丸
甲山丸
葵丸
(第三十四掃海隊)

海軍公報 (部内限) 號外

八五

0366

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千五百三十九號

昭和十八年十一月十二日(金)

海軍大臣官房

○辭令

海軍少尉 森田 久一
第三部勤務ヲ命ス(計部軍令部)

海軍主計少尉 柳 川 隆
驅逐艦秋風ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦
隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(計部支出官 海軍
省經理局長)

○雜 款

○來院者下車驛ニ關スル件
本院來院者ハ左記ニ依ルヲ便トス

一 下車驛 日豊線 隼人驛

隼人驛—松永間陸路五軒
隼人驛ヨリ日當山温泉經由妙見温泉行乗合バス
便又ハ馬車便アリ何レモ日當山ニテ下車
日當山—松永間約二軒

海軍公報(部内限) 第四千五百三十九號

昭和十八年十一月十二日

一一一五

二 所在地 鹿兒島縣始良郡霧島村字松永
(隼人海軍病院)

○取消

十月十三日附公報(部内限) 號外辭令欄二八頁下段六
行目「伊東祓治」同三〇頁上段十四行目「増野 勇」
ノ辭令ハ孰モ取消

○訂正

十月十三日附公報(部内限) 號外辭令欄一一頁下段十
七行目「同」ハ「海軍航空技術廠海軍共濟組合囑託」
ニ、同十九行目「同」ハ「横須賀海軍工廠海軍共濟組
合囑託」ニ、同十三頁下段十五行目「同」ハ「第二海
軍火藥廠囑託」ニ、同二二頁下段十一行目「高知」ハ
「高松」ニ、同三二頁下段十三行目「第四艦隊」ハ「第
八艦隊」ニ孰モ訂正

○正誤

十一月九日附公報(部内限) 一一九頁辭令欄九行目
「恩賜研究資金受賞者銓衡常置委員ヲ命ス」ハ「恩賜研
學資金受賞者銓衡常置委員ヲ命ス」ノ誤

0367